産経新聞厚生文化事業団運営「明美ちゃん基金」によるミャンマー医療団に参加して

藤井　啓介
和歌山県立医科大学麻酔科学教室

「明美ちゃん基金」とは、昭和 41 年に先天性心疾患などに苦しみながら経済的な事情で手術をうけることができない子供たちを救うため、産経新聞社が提唱して設立された基金である。「明美ちゃん基金」は平成 27 年 9 月に「ミャンマープロジェクト」を立ち上げ、日本からミャンマーに医療団を派遣し現地の先天性心疾患の患児の治療および現地医師の医療技術指導を行っている。今回この「ミャンマープロジェクト」の平成 30 年 2 月から令和元年年 9 月までの第 6 - 9 回医療団に、和歌山から 1 名ずつ麻酔科医として参加する機会を得た。

今回我々が参加したミャンマー医療団は、約 1 週間の日程で訪緬（ビルマを漢字で緬甸と書くため）した。医療団は、内科医 4-5 名と、外科医 3 名、麻酔科医 2-3 名、臨床工学技士 2 名で構成されており、私以外は日本の小児循環器治療の最先端を駆ける医師からなるチームである。我々は日曜日の朝成田発ヤンゴン行直行便で約 8 時間のフライトののち、夕刻には国立ヤンキン子供病院で翌日の手術症例と手術適応についてのカンファレンスを行った。国立ヤンキン子供病院は、5,000 万人以上の人口を抱えるミャンマーで、心臓手術室や心臓カテーテル検査室を備えた小児の心疾患診療が可能な唯一の病院である。この病院には、日本で研修をうけたミャンマー人の小児循環器内科医、小児心臓外科医、小児集中治療医がそれぞれ 1 名ずつ所属しており、彼らとともに治療を行った。

外科チームは、月曜日朝 7 時から金曜日の夕方まで、毎日 1-3 例の手術を行った。症例は、VSD（心室中隔欠損症）から始まって、AVSD（房室中隔欠損症）、TAPVC（総肺静脈還流異常症）、PA
sling（肺動脈スリング）、TOF（ファロー四徴症）など多岐にわたっていたが、2 期的、3 期的な手術が必要な複雑心奇形の症例はなかった。これには、現地の外科医や内科医の医療技術の問題だけでなく、術後外来管理の問題や寿命の問題など、多くの問題が含まれているようであった。私たちとともに外科チームの麻酔科医として参加してくれた現地医師は 3 名で、うち 1 名は人工心肺を主に担当していた。私たちのようなミャンマーへの応援医療団は、世界各国から派遣されており、主に体重 10kg 未満の症例は管理が難しいため、現地の麻酔科医ではなく各国の医療団が対応していたようである。

日本国内でのミャンマーに関する情報は、ロヒンギャ迫害や空港でのロイター記者逮捕などよくない話が多い。しかし実際訪れてみると、治安に問題があるとは全く感じられなかった。また麻酔中の停電やずさんな麻薬管理など、カルチャーショックを感じる経験も多数あった。本講演で、ミャンマーでの医療や医療後進国の支援に興味を持っていただけたら幸いである。